

私たちは「よりよい学童クラブ」を目指して活動しています

## CONTENTS

# 連協ニュース

西東京市学童クラブ連絡協議会

2005/No.

8

ブログのURL <http://blog.goo.ne.jp/renkyo1925/>

子ども文化フェスティバル	1
定例委員会報告	
連協基礎用語辞典	2
保育行政が危ない!	
子ども文化フェスティバルに参加して	3
情報コーナー	
「日本の学童ほいく」を読んで	

## 子ども文化フェスティバル

1月29日(日)に西東京市民会館で第5回西東京子ども・文化フェスティバルが開催され、西東京市学童連協は昨年引き続き「なぞのこうさく」という企画で参加しました。

今年の「なぞのこうさく」は「動くスライム」でした。最近スライム作り自体は特に珍しいものではなく、今回は単にスライムを作るだけでなく、中に砂鉄をいれたスライムを磁石に反応させて遊ぼうということです。

午前中は来訪者もまばらな感じでしたが、午後になって俄然子どもが集まり始め、そのまま片付けの時間までずっと満杯状態でした。スライムを作って磁石を近づけて・・・とやっているとなんか一人一人に結構時間がかかることもあり、当初は一度に6人が作れるような配置になっていたのですが、あっという間にいっぱいになってしまいました。このため、椅子を追加し、大人が座る予定だったテーブルの反対側のスペースにも子どもを座らせていました。(それでも足りないくらいでした。)

できあがった砂鉄入りスライムに磁石を近づけると、アメーバのように手を伸ばし、もっと近づけず



動くスライムを作る子どもたち

ぎるとピトッとくっつきます。くっつかない程度に近づけて磁石を動かすと、スライムが宙をつかむようにクネクネと動きます。子どもたちも「へえー」という感じで見入っていました。ただ、砂鉄は重いのですぐ底に沈んでしまい、まんべんなく砂鉄の混ざったスライムを作るのは結構難しいようでした。(最後は手でこねるのが一番ということで、みんなこねていました。スライムをこねる感触が、また気持ちいいものです。)

今回の企画は参加してくれた子どもたちにはとても好評でした。ただ、一方で、本当は子どもたちがスライムをつくるはずだったのに、混んでくると時間を節約するために、子どもは大人から言われるままに材料を混ぜるだけになってしまい、「自分で作る」という感覚が薄くなってしまったようです。また、同じ子どもが何度もやってきたり、一度に何個も作ったりして、初めての子どもが座る場所がなく帰ってしまったということもあり、運営の仕方にもう少し工夫が必要だと感じました。最後になりましたが、当日ご来場いただいた方々、お手伝いいただいた方々本当にありがとうございました。

(事務局員 北芝久保 田中)



**定例委員会報告**

1月21日に保谷障害者福祉センターにて第7回の定例会が開かれました。

当日は朝から雪が降り、道路にも雪が積もる状況の中、22学童父母会の委員の方々に出席していただきました。ありがとうございました。

主な話題や報告は以下のとおりです。

- ・子どもが巻き込まれる痛ましい事件が数々発生しているこの頃です。児童課の中山課長から「行政としては子どもを護るためにできる限りのことはするが、6時帰りの子どもを帰宅路途中まで送ることについては、完全に対応できない場合もある。行政任せではなく、保護者の協力もいただきたい。父母会が地域と密着して保護者と地域団体や商店などの組織作りをして、子どもを護るようにしてほしい。」という話があり、そのことを皆様にお知らせしました。是非、父母会の皆様のご協力をお願いいたします。

- ・1月29日（日）に西東京市民会館で開かれる「子ども文化フェスティバル」に連協の事務局が参加し、子ども向けの実験工作などを行います、お子

さんが楽しめるたくさんのおし物があるので、是非お出でくださいというお知らせをしました。

- ・2月26日（日）に西東京市民会館で行われる「三多摩学童保育フォーラム」について、各学童父母会に駐輪場整備や道案内のお手伝いしていただきたい旨のお願いをいたしました。また、少しでも多くの人に参加していただきたいということで、各学童父母会からの参加者の目標数を説明いたしました。

- ・連協より皆様への情報発信の手段である、インターネット・ブログ新装のお知らせをしました。1月より管理者が替わり、頻りに更新しながら新鮮な情報を皆様にお届けしています。是非ご覧ください。また、ご意見や質問などがありましたらどんどん書き込みをして下さい。

- ・各学童からの報告では、年末に行われたお楽しみ会や、冬休み中のバス遠足などと言った報告が多く聞かれました。お正月らしいお餅つきや、“忍者修行”と言うとても珍しい行事もありました。



**連協基礎用語辞典**

2/26は三多摩学童保育フォーラムです。全体会や分科会に参加すると当然のように出てくる専門用語。わからないけどいまさら聞けない、なんていうことがありますよね。基礎用語辞典で予習して学童保育フォーラムをさらに楽しみましょう。

**■日本の学童ほいく**

（にほんのがくどうほいく）名詞（略）ほいく誌 月46,000部以上を発行している、日本で唯一の学童保育専門誌。毎月の特集記事では子育て、家庭、指導員などの問題を取り上げて様々な角度から検証している。持って歩いて読みやすいサイズになっているが、時には涙する感動的な記事があり、電車などで読む時には注意が必要。全国連協の運営費のほとんどはほいく誌の売り上げで賄っている。学童保育関係者必読書。

**■全員入所（ぜんいんにゅうしょ）**名詞（略）全入 申し込み希望者が全員入所できるという施策、または運動。学童には定員があり、定員を超える申し込みがあると申込家庭の状況によりポイントをつけ、必要性の高い児童より入所が許可されている。近年入所希望者が増大し、よりポイントの高い1,2年生のみの学童が出てくるなどの弊害が発生してきたため、多くの市連協で全員入所運動が起こった。三多摩連協に加盟している団体がある地域の多くは全員入所の施策をとっており、待機児が少なく「入ってよかった三多摩連協」と呼ばれている。

**■大規模化（だいきぼか）**名詞・動詞

1学童保育所あたりの入所児童数が多くなる現象。法制化以降希望者が急増し、全員入所の施策を取る自治体も増えて、入所児童数は年々増加しているが、施設の整備・拡充が間に合わず、全国的にも多摩地域でも大規模化が進んでいる

厚生労働省の指針では35名～40名が適正規模とされているが、80名、100名、中には120名以上のところも出てきていて保育の質が問われている。

全員入所と大規模化解消は一見矛盾する問題であるが、解決しなければならない課題である。

**■（仮称）子育て推進交付金（こそだてすいしんこうふきん）**名詞 別名 子育て丸投げ交付金

東京都が保育園や学童に出していた13の補助金を合体して、子育て交付金という名称で一括して各自治体に配布するという制度。10月に都から市長会に提案され、いくつかの市町村からは反対の決議もされたが、協議の結果市長会として7つの条件をつけ承認された。

いままで学童に出されていた補助金は学童にしか使えなかったが、交付金化すると各行政が自由に配分して使える。自由度が増し一見良さそうに見えるが総額は一定なので、学童にいっぱい配分されればその分保育園が少なくなるということになり、市の担当課同士の取り合いという状況になりかねない。この提案は都の責任を各行政に丸投げするものであるため、別名「子育て丸投げ交付金」とも呼ばれている。（あくまでも連協ですが…）

**保育行政があぶない？！都補助金制度改正**

現在の多摩地域の学童保育には、国の補助金（国庫補助）と東京都独自加算の補助金（都加算）が出されています。東京都独自加算の補助金は「学童クラブ運営費補助事業」という名称で、2005年度予算で総額約5億円です。

東京都は、昨年10月に突然市町村に対し、2006年度よりこの「学童クラブ運営費補助事業」を含む、保育関係等子育てに関する13事業の東京都独自加算の補助金（総額145億円）を一旦廃止し、これらを一括し総額は維持して「子育て推進交付金（仮称）」として再構築するという提案をしました。

補助金の場合、例えば学童保育の補助金ならば学童保育にしか使えませんが、13事業が一括して交付金になると、その範囲では使い方はそれぞれの市町村に任されることとなります。一見自由度が増して良いようですが、総額は一定なので、一つの事業に多くを使えば、他の事業の取り分を削ることになります。

13事業の総額145億円のうち、認可保育園運営費に関する6事業が130億円と殆どを占めていますので、学童保育の取り分を増やせば認可保育園関係の取り分が減るということになると考えられます。学童保育の子どもの環境が良くなったら、その代償として保育園の子どもの環境が悪くなってしまうのです。市の内部で、学童保育所管課と保育園所管課が交付金を取り合うような事態になりかねません。

さらに、この大幅な政策変更の理由が、「国の補助金はなくなったから、その上に乗っている都加算もなくなる」というものですが、少なくとも学童保育に限っては、来年度も国の補助金は継続しますし、その後も厚生労働省の所管課は残したい意向を表明し

ています。

そこで、西東京市連協をはじめ、三多摩連協を構成する各市連協は、「都の提案は、都の責任を市町村に丸投げするもので、子育て推進にはならない」という理由から、学童保育の都加算は継続するよう、東京都や市長や議会に働きかけてきました。保育団体にとっては事態はさらに深刻ですから、連日のように働きかけを行ったとのことでした。

こうした働きかけもあって、国立市長はいち早く都の提案に対し反対を表明、14市議会で、都加算継続の意見書を都に上げることを求める請願・陳情が審議され、うち6市議会から都に対し意見書が上げられました。

しかし、東京都市長会は1月25日に東京都と合意してしまいました。市長会内に設置されている厚生部会で、都の提案に対する各市の要望を集め、「交付金総額は2005年度予算ベースを確保する。2010年度以降の取扱いでは市町村との話し合いの場を設ける」など7項目に集約し、都に迫ったところ、都がこれを受け入れたというのがその理由です。最終的な決定には都議会の承認が必要ですが、東京都と市長会が合意したものが覆ることは極めて稀と考えられます。

このような事情なので、西東京市連協としては来年度以降、市に対する要望をさらにいっそう強めていくことが大切です。2005年度予算では、西東京市に降りた13事業の都加算補助の合計は4億4700万円、うち学童保育は2800万円でした。今後は、保育園連協とも協力し合って、「交付金はこう使ってほしい」という提案を具体的に出していくことも必要となってくるでしょう。

市のお金の使い方から、目が離せません！

★子ども文化フェスティバルの実行委員になって・・・

1月29日（日）『西東京市子どもフェスティバル』が晴天の中開催されました。

私は、今回実行委員をやったのですが 実は子どもフェスティバルというものを良く知りませんでした。

実際、当日行ってみて 最初は子供もパラパラしか来なくて「やっぱり、寒いから子どもの集まり悪いのかな」と思っていたら・・・お昼近くになって、結構集まってきて一安心しました。いよいよ本格的にスライム作りが始まり、スライムを作ったことのない私は子どもの人数が多すぎて対応がかなり大変でした。ただ同じ子が何度も来たりもしていましたので一人一回しかできないくらい来ればいいのにと思いました。

フェスティバルの翌日またまた会った本町小学校の男の子に「昨日、市民会館で砂鉄入りスライム作ったんだよ」と話したら「えー作りたかったあ」と言っていました。子どもフェスティバルのこと全然知らなかったようです。

そんな子供たくさんいそうですね。結構色々な場所に宣伝したのに残念です。

来年は、暖かい時期にやろうと言う話もあったのもっとたくさんの子供たちがこの催しを知って来てくれるといいですね。

（事務局員 高木）



## 情報コーナー

## ★カンパのお願い

・カンパの趣旨一連協では様々な情報を収集するために、有志を全国研究集会やその他の会合に派遣しています。しかし全国研のように、遠方に行き、参加費を払って会合に参加するのはかなりの負担です。そこで会員の皆様よりカンパを集めて、参加費程度の補助を行っています。ご協力をお願いします。

- ・金額は？：1口200円で何口でもOKです。
- ・期限は？：3月の定例委員会まで随時受けつけています。保護者会の席などで集めていただくと幸いです。
- ・使用報告は？：総会資料に報告させていただきます。
- ・いくら足りないの？：集まった分の中で補助をしますので、決まった金額ではありません。

## ★次回定例委員会

日時：2006年3月18日（土）19：00～

場所：田無総合福祉センター

## ★連協ブログ運用中！

ブログを作りました。ブログとはインターネット上の日記が発達したものです。ホームページより簡単に更新ができます。今後、定例会の開催などのお知らせはブログで行いますので、そちらにアクセスしてください。

ブログURL <http://blog.goo.ne.jp/renkyo1925/>

## ★連協ニュースのカラー版が出来ました。以下のサイトから！

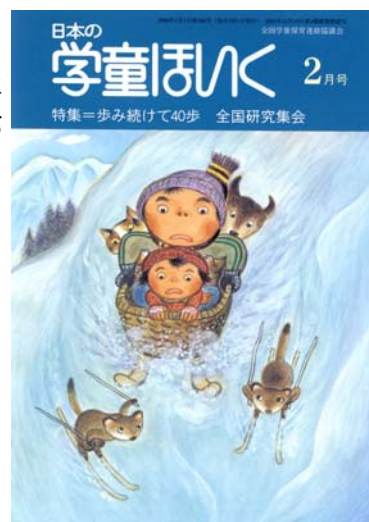
<http://www.tonpo.net/gakudou/>

## 『日本の学童ほいく』を読んで

今月号の特集は「全国学童保育研究集会」今年で40回を迎える研究集会は、全国から毎年4000名以上の父母や指導員が集まる大きなイベントです。今年度は横浜で行われました。毎年2月号は研究集会の特集があり、当日の感動がまたよみがえります。聴いたときよりもちょっと間があいて、文字で読むと感動も新たです。基調講演をした作家の重松さんの言葉も文字で読むとさらにわかりやすく心に響いてきます。

日本の学童ほいくは名前からちょっと取っ付きにくい本ですが、ページをめくるたびに感動が伝わってくるすてきな本です。

新年度の申込が間もなく始まります。ぜひこの機会に年間購読をお勧めします。



## 「日本の学童ほいく」

**購読料：3960円（一年間） 3月から新年度の申込が始まります。**

お申し込み <http://www.tonpo.net/gakudou/> 又は各父母会連協担当まで

## 事務局ニュース

◆「子育て推進交付金」議会で承認されれば来年度から実施されるとか…。「少子化対策」などといいながら、どんどん子育てしにくくしているのは誰なのでしょう。このままではほんとに大変なことに……。

◆さていよいよ三多摩フォーラム本番！半年準備した結果が現れる。皆さんぜひ参加してくださいね。

◆トリノオリンピックが始まった。ヨーロッパの大会ってライブで見ようとすると寝不足になる。でもやっぱりスポーツはライブでないとね……。

(菊池)

発行：西東京市学童クラブ連絡協議会

住所：西東京市柳沢2-8-10-108 TEL 0424-67-1883

発行者：田中 謙（会長）

発行日：2006年2月18日

編集：菊池 田中 伊藤 永井 古谷 松本 加々見  
溝端 宮下 熊田 佐藤 片井木 小泉 他

メール：[renkyo@tonpo.net](mailto:renkyo@tonpo.net)

メーリングリストもあります。下記ホームページから申し込んでください。

<http://www.tonpo.net/gakudou/>